

重点項目	(1 学習活動) 学習活動	
重点課題	教科指導方法の改善と基礎学力の定着・充実	
現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>与えられた課題に真面目に取り組んでいる生徒がいる一方で、自身の進路に対する具体的な目標を明確に持てないため、学習意欲が低く、家庭学習時間が十分に確保できていない生徒も多い。</li> <li>教員間での互見授業や生徒に対して授業アンケートを行い、校内外の教員や生徒からの評価をもとに、各教員で授業改善に取り組んでいる。</li> </ul>	
達成目標	①生徒の授業内容の理解度 5段階評価で4以上とした生徒の割合	②学習内容を理解するための、粘り強い取り組みの状況 5段階評価で4以上とした生徒の割合
	70%以上	60%以上
方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワークシート等を用いて、生徒の理解度を把握し、授業改善につなげる。</li> <li>授業アンケート(7月・12月)を実施し、実態を把握する。</li> <li>ICTを活用し、理解や思考の深まりを促す。</li> <li>生徒の主体的な学びを促すために、ペアやグループでの協働的な学びの場面や自らの考えを広げて深める対話的な学びの場面を設定する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業アンケート(7月・12月)を実施し、実態を把握する。</li> <li>基礎学力定着に向けて週末(週間)課題等を工夫して与え、生徒が学習習慣を身につけられるようにする。</li> <li>担任による個別面接等で生徒の学習の取り組み状況を把握し、進路目標と絡めて主体的に学ぶ意欲を喚起する。</li> <li>具体的な進路目標をもたせられるよう学年や進路指導部と連携をし、自分に合った学習の進め方を考えさせ、計画的に学習に取り組ませる。</li> </ul>
達成度	質問1:説明がわかりやすかったか 1年:74% 2年:76% 3年:75% 全体:75.0%  質問2:興味・関心をもつことができたか 1年:68% 2年:68% 3年:71% 全体:69.0%  質問3:ポイントを明確につかむことができたか 1年:61% 2年:69% 3年:69% 全体:66.3%  質問4:自分の考えを深めたり、視野を広げたりすることができたか 1年:59% 2年:66% 3年:68% 全体:64.3% 平均 68.7%	質問1:予習・復習に十分な時間をかけたか 1年:42% 2年:44% 3年:47% 全体:44.3%  質問2:授業に意欲的に取り組んだか 1年:71% 2年:76% 3年:76% 全体:74.3%  質問3:学習内容を理解しようと粘り強く取り組んでいたか 1年:56% 2年:60% 3年:64% 全体:60.0% 平均 59.5%
	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒に授業の振り返りを記入してもらい、生徒の理解度、現状の把握をしながら、各教員が授業改善につなげている。また、生徒が考えをまとめ、その前段階の知識や技能を理解し習得できるように、丁寧に授業を進めている。</li> <li>授業の中で、生徒同士での話し合い・教え合いの場を必要に応じて設け、わかる生徒が、ほかの生徒に教えるなど、生徒の理解が進むようにした。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>評価の3つの観点のうち、主体的学習に取り組む態度の評価は、授業中のみでなく、課題やノート取り組み方についても評価することを生徒にも共有した。</li> <li>基本事項を押さえられていない生徒への補習を行い、学習意欲をもたせるようにした。</li> <li>将来の進路を明確に考えられるよう、進路ガイダンスや校外進路学習、進路研修旅行、総合的な探究の時間を活用して、生徒が自分の適性や興味、自分の強みについて考える機会を多くもたせた。</li> </ul>
評価	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>ほぼ達成した。</li> </ul>
学校評議員の見	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICTを活用した授業や学びの工夫が求められている中で、教師の努力には敬意を表す。生徒の学習活動において短期的な成果と中長期的な成果があることを理解し、長期的な視点で生涯にわたって学び続けられる人材を育成する視点が重要。</li> <li>生徒一人一人に合わせたきめ細やかな指導が進められている。アンケートでは、学年別や教科別、1回目と2回目の比較などを行ってはどうか。また、アンケートで生徒の意見が反映される工夫が望ましい。</li> <li>達成目標が設定されているが、達成度が低い学年や教科について再度分析し、効果的な取り組み方法を再検討してほしい。</li> <li>「はい・いいえ」で答えるだけでは改善に繋がらない可能性がある。アンケートには具体的なコメントをもらい、授業改善に繋げることが重要。</li> <li>ICTの効果的な活用を継続し、生徒の学習に役立てることを期待する。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>昨年度よりも達成度は上昇したが、達成目標を10%上げたため達成には至らなかった。</li> <li>今後も授業でのICTの効果的な活用や協働的な学びを通して、生徒の視野を広げるとともに、丁寧な指導を行い、主体的に学習に取り組む態度の向上、生徒の理解度の向上につなげたい。</li> <li>今後も生徒の学習状況を把握しながら、各教員が授業改善に取り組み、生徒がその学習を通して成長したという実感をもてるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>達成率はやや上昇し、概ね達成できた。今後も学年や進路指導部と連携しながら、各自の進路実現までの見通しがもてるようにガイダンスの機会を多く設けていく。</li> <li>理解が進むような問題の解き方や粘り強く取り組む力を身につけられるよう、今後も継続して指導していく必要がある。生徒の実態に応じて、意欲的に取り組むきっかけを与えられるよう学年・教科担当と連携していくことが重要である。</li> </ul>
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>達成率はやや上昇し、概ね達成できた。今後も学年や進路指導部と連携しながら、各自の進路実現までの見通しがもてるようにガイダンスの機会を多く設けていく。</li> <li>理解が進むような問題の解き方や粘り強く取り組む力を身につけられるよう、今後も継続して指導していく必要がある。生徒の実態に応じて、意欲的に取り組むきっかけを与えられるよう学年・教科担当と連携していくことが重要である。</li> </ul>	

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:あまり達成できなかった D:達成できなかった)

重点項目	(2 学校生活) 規範意識の向上と保健指導	
重点課題	①遅刻者数の減少 ②スマートフォン等、端末機器の節度ある使用	自己解決能力を育む
現状	①生徒一人あたりの年間平均遅刻数は下記のように推移している。 R1年度…0.92回 R3年度…0.85回 R2年度…0.43回 R4年度…0.78回 (R2は4,5月休校) R5年度…0.89回 ②スマートフォン等の利用に関する調査から下記のような結果がみられた。 ・1日(平日)の平均利用時間 3時間未満…42%(5時間以上18%) ・何時まで利用しているか? 23時以降…54%(朝3時まで使用…3%)	・心身の不調が睡眠不足や生活習慣の乱れにつながり、授業や部活動に集中できない生徒がいる。 ・悩みや不安の解消方法がわからない生徒が増えている。 ・保健室の来室状況において「気持ち」が来室理由の上位にある。
達成目標	①生徒一人あたりの年間平均遅刻回数 1.0回未満 ②1日平均利用時間 2時間未満…50% 23時以降使用しない。…60%	②心の不調に対する自己解決能力の育成 生徒が、悩みや不安が原因で心身の健康を害する前に予防的の手立てがとれるようになる。
方策	①毎朝正門前に立ち、生徒への声かけや登校の様子等を観察するとともに、特に時間ぎりぎりに登校してくる生徒に対しては、声かけ指導等を行う。また、遅刻2回の生徒に対しては面談を行い、原因を振り返らせるとともに、改善策を立て、生活習慣の見直しを促す。 ②全校集会やHR、ネットラブル防止教室等を利用し、スマートフォンの正しい使い方や長時間使用による健康被害や危険性について周知する。また、生徒会や風紀委員会にスマホ使用ルール等について話し合いを持ってもらうことで、スマートフォン等端末機器との向き合い方についての啓発活動につなげる。 アンケートを実施し、使用状況を確認する。	・アンケートを年2回実施し、自分の生活を振りかえって心身の健康課題を把握し、それを改善する方策について考える機会とする。 ・「保健だより」や生徒保健委員会で、ICTを活用し、心身の健康に関する情報を発信する。 ・SCによる講話等を行い、心の健康を保つための知識と理解を深める。 ・リフレーミングなどを活用し、物事を多角的にとらえる柔軟性を身につける。
達成度	①遅刻数の減少について ・1学期 133回(前年度155回) ・2学期 164回(前年度178回) ・3学期 9回(前年度13回) 平均遅刻数は 0.85回 ※1/15現在 ・複数回遅刻者 計51名 1年19名、2年11名、3年21名 ※前年度複数回遅刻者 計81名 (1年13名、2年33名、3年35名) ②端末機器の節度ある使用について ・1日(平日)の平均利用 3時間未満…39.7%(5時間以上26%) ※前年度 3時間未満…42%(5時間以上18%) ・何時まで利用しているか? 23時以降…48%(朝3時まで使用…7%) ※前年度23時以降…54%(朝3時まで使用…3%)	・自分がストレスを感じたときに起きるストレスサイン(動悸・冷や汗・イライラ・気分の落ち込み等)について知り、そのときどう対処すればよいかを学んだ。 ・アンケート(11月実施)で、具体的なストレス場面を示し、どう行動するか聞いたところ、学んだことをいかして自分なりの対処方法を考えていた。例えば、「仲の良い人がおらず、合わないグループの中にいる」という場面では、「少し距離を置いて適切な距離感で接する」「社会に出ると、仲良くない人との関わりは避けられないと考えて、とりあえず話してみる」など、自分で実践できそうな方法を考えることができていた。
具体的な取組状況	①遅刻数の減少について ・学年、担任に対して、8:40着席指導の協力を求めた。 ・遅刻2回の生徒に対して面談を行い、原因を振り返らせるとともに、改善策を立て実行を促した。 ②端末機器の節度ある使用について ・昨年度末に生徒会の働きにより、校内での使用ルールの見直しを行った。校内での使用ルール違反件数は減少したものの、アンケート調査結果からは、使用時間が3時間未満、23時以降も使用と答えた生徒の割合はわずかではあるが減少が見受けられた。しかしながら、5時間以上の使用及び朝3時まで使用すると答えた生徒数が増えたことは、大きな問題である。	・SCによる講話(1年生対象)やコミュニケーション講座(2年生対象)を実施し、メンタルヘルスやコミュニケーションについて理解を深めた。 ・アンケートによる実態調査を行った。その結果、雄山高校生のストレス耐性は、強い75%、どちらでもない22%、弱い3%であった。特にストレスの大きかった場面は「何のために勉強しているかわからない」「仲の良い人がおらず、合わないグループの中にいる」だった。また、人によってストレスの大小に差があった場面は「友達にあいさつをしたのに返事がなかった」だった。それらの場面で自分ならどう行動するかも考えた。 ・全校生徒で「リフレーミング」の活動に取り組み、ポジティブな物事もポジティブなものとしてとらえることでストレスを軽減できることを学んだ。また、保健委員がリフレーミングを紹介するポスターを制作したり、保健だよりに掲載するなど啓発活動を行った。 ・保健だよりで、心の健康に関するさまざまな情報を発信した。
評価	B ①数値目標は達成されているものの、クラス減等を考慮すると数値をそのまま評価できない面もあるかもしれない ②節度ある使用に関しては、引き続き全校集会やHR、講演会等で長時間使用の弊害やネットラブル防止に努めなければならないと考える。	B ・悩みや不安が原因で心身の健康を害することがないように、予防的の手立てについて考えることができた。
学校評議員の見	・社会が不安定な中、規範意識を正しく身に付けることの重要で、家庭・学校・地域が一体となって取り組んでほしい。 ・生徒の遅刻問題に対して、目標設定が低すぎると感じた。遅刻者0回50%、1回20%、2回20%~のような表し方をすると実態が分かり少数の遅刻の頻度の高い生徒の改善に繋がれると思う。また、遅刻の原因を分析し、改善に向けた指導方法を検討してほしい。 ・スマートフォンや端末機器の使用に関して、利用実態の詳細な把握し、使用方法について正しい指導を行う必要があると思う。使用時間の評価だけでなく、適切な使い方について指導することが重要である。 ・心身の健康について、気になる生徒への声掛けや心配りと、SOSを発信できない生徒への配慮も重要である。さらに、生徒に安心感を与える先生方の姿勢が大切である。	
次年度への課題	・長期欠席は別として、安易な理由による欠席も多いのではないかと感じる。コロナ禍での無理させて登校しなくてよいという対応が現在も影響しているように感じる。生活習慣の見直しや改善に改めて努めさせるとともに、時間を守る意識や先を見越した行動ができるよう指導を継続したい。 ・アンケートの結果から、スマートフォン等の端末機器の使用時間は相変わらず多い。合わせてインターネット上でのトラブルや被害等についても、思いもよらない様々な状況があることが生徒の事例から知ることができた。便利なツールではあるが、「正しい利用・使用」について、今後も指導や支援していくことが重要であると考えている。 ・SCによる講演や保健だよりが印象に残っている生徒が多かった。ストレスとは常に付き合っていくかねばならないので、自分にあったストレス対処法を探せるように、今後も取り組みを継続し、心の健康の保持増進に努めていきたい。また、家庭との連携も必要であると考えている。 ・物事の捉え方や考え方を考えることにより、ストレスを軽減できる。自分だけでは考え方を考えるのが難しいときは、他人の意見を聞いたり、相談するなどして、自分一人で考え込まないようにすることが大切である。教員やSCへ相談しやすいような環境整備も大切である。	

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:あまり達成できなかった D:達成できなかった)

重点項目	(3 進路支援) 進路実現を図るための基礎力の充実	
重点課題	進路意識の向上と進路支援の充実	
現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会とのかかわりの中で自己を見つめ、自らの進路を具体的に考えようという意識に乏しい生徒が多い。</li> <li>・進路実現に向け、向上心を持って主体的に挑戦する姿勢に乏しい。</li> </ul>	
達成目標	① 1、2 学年生徒へのアンケートで、自己の進路選択に活用するため、進路学習に積極的に取り組むことができたとする生徒の割合	② 3 学年生徒へのアンケートで、進学補習・面接練習・個別指導などの進路支援に対して肯定的にとらえていた生徒の割合
	90%以上	90%以上
方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合的な探究の時間を有効に使い、適性検査及び進路ガイダンス、校外進路学習、職業人講話、立山町企業見学、インターンシップなどを行うことにより、自己を見つめ、自己理解・社会理解を深めるようにする。</li> <li>・担任面接の機会を重視し、生徒の進路意識を向上させるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オープンキャンパス、学校説明会、職場見学に意欲的に参加できるように適切な情報を随時提供する。</li> <li>・補習や全教員による個別指導などをおして基礎学力を定着させ、目標達成に向けて更なる進展を図る。</li> <li>・面談を重ねることにより、生徒の志望を確かなものとし、受け身ではなく、自ら十分に準備をして受験に臨めるよう対応する。また、保護者懇談会の機会を利用して、家庭との連携の緊密化を図り、協力を求める。</li> </ul>
達成度	・97.0%	・99.2%
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2 学年は進路ガイダンスや進路講演会をとおして進路意識を高め、具体的に考えられるよう指導した。1 学年は立山町企業見学、校外進路学習を実施し、体験的に進路や職業を意識するようになった。</li> <li>・担任との面接は随時行い、進路意識を向上させるようにしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オープンキャンパスや就職応募前職場見学に意欲的に参加していた。</li> <li>・補習や個別指導をとおして学力の定着と向上を図り、生徒一人ひとりの目標達成を目指した。</li> <li>・担任や面接担当と面談を重ね、本人や家庭の意思の把握に努め、納得のいく進路選択につなげるようにした。</li> </ul>
評価	A <ul style="list-style-type: none"> <li>・ほとんどの生徒が進路学習に積極的に取り組むことができたと答えていた。</li> <li>・担任との面接、総合的な探究の時間の取り組みと進路行事により、多くの生徒が進路について意識するようになっていく。</li> </ul>	A <ul style="list-style-type: none"> <li>・面接練習や教科の個別指導などが丁寧で、親身になってもらったという思いを強く持つ生徒が多かった。</li> <li>・個別指導や進学補習でわかるまで教えてもらえ、アドバイスが役立ったという意見が多かった。</li> </ul>
学校評議員の見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路指導が学年ごとに工夫され、自己理解を深め、社会や他者との将来の関わりを見据えた進路選択が行われている。生徒一人一人を大切にする姿勢を評価します。</li> <li>・探究の時間を活用し、進路意識の向上に繋がる取り組みがなされている。行政・学校・地域との連携を活かすことができている。</li> <li>・今後、同様の課題に取り組むことではなく、次年度への重点課題として現状を再度分析され、新たな取組を検討されることを期待します。</li> <li>・進学や就職に有利な資格取得に対する意識を高めるため、普通科の生徒にも資格取得の機会を提供してほしい。資格欄に記載する内容の充実が進路支援に繋がる。</li> </ul>	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1、2 年生とも総合的な探究の時間を有効に使い、将来の進路、職業を意識するような学習や行事を精選し、充実させ、計画的に指導を積み重ねる体制をつくっていく。</li> <li>・与えられたものに取り組むだけでなく、自己理解と社会理解を深め、意欲的、主体的に進路を考えると同時に、日々の学習や様々な活動に自ら取り組み、深めていく方策を考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路希望先に応じた応用力を必要とする生徒に個別指導を行っているが、進路先が多岐にわたるため、より良い対応ができるよう指導体制を見直しながら実施していく。</li> <li>・面談を繰り返し行う中で本人の進路意識を明確にし、受け身ではなく、広い視野を持って自ら十分に準備をして受験に臨めるよう対応する。</li> </ul>

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:あまり達成できなかった D:達成できなかった)

重点項目	(4 特別活動) 特別活動および図書指導の充実	
重点課題	ボランティア活動の充実および読書習慣の確立	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会からの呼びかけによる校内ボランティアや地域でのボランティアに参加する生徒が一定数いる。昨年のボランティア経験率は、55.7%であった。</li> <li>・ボランティアに複数回参加する生徒もおり、他学年の生徒と一緒に協力しながら、自分が地域や学校で役立っている喜びを感じている。ただ、1年生やボランティアに参加したことのない生徒が、どんな活動をしているのか見通しを持ちにくい現状がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読書好きの生徒がいる一方で、全体として図書に対する興味・関心は依然として低い。そのため、HRや授業での図書室の利用を除くと、自発的に図書室を利用するのは一部の生徒だけである。昼休みや放課後など、図書委員を中心に来館者は微増しているが、生徒全体には、広がっていない。</li> </ul>
達成目標	①ボランティアに一度でも参加した生徒の割合	②一日当たりの平均図書室利用者数
	70%以上	12人以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会から、ポスターや校内放送で、どんな活動をするのかがわかるように発信し、未経験の生徒にも見通しがもてるようにするとともに、ボランティアの意義を発信する。</li> <li>・生徒会が企画する活動や、地域で行う活動など、参加する機会を多く設定する。</li> <li>・ボランティア活動体験率の把握に加え、ボランティアをやってよかったことをアンケート調査する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書室の利用者総数とクラス別の図書貸出総数を掲示する。</li> <li>・授業やHRでの図書室活用を促進し、読書へのきっかけを拡大していく。また資料となる書籍の充実に努める。</li> <li>・図書委員会の活動の活性化を図り、図書室利用を促進する。</li> <li>・図書委員のアイデアを積極的に生かし、図書選定を行ったり特集コーナーを設けたりし、読書の魅力をアピールする。</li> <li>・検定や小論文対策の書籍・資料コーナーをさらに充実させ、生徒が活用しやすいよう工夫する。</li> </ul>
達成度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校外のボランティア活動に、一度でも参加した生徒の割合は52.5%であった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・12月末現在での来館者数は1,714人で、一日平均11.3人であった。</li> </ul>
具 体 的 な 取 組 状 況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「花いっぱい運動」を5月、11月、12月の計3回、「五百石駅地下道清掃」を6月、10月の計2回行った。</li> <li>・生徒会執行部より、ボランティアへの参加の呼びかけ(放送、掲示)を行った。執行部員で目に留まるようなポスター作成の工夫をした。</li> <li>・立山町でのイベントなど、学校外でのボランティア参加の依頼も昨年よりも増加し、全校に呼びかけた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書委員や来館者から、図書館へ入れてほしい本のリクエストを受けつけたり、新着図書のコーナーを設置し、図書便りで知らせたりした。</li> <li>・授業やHRでの使用を呼びかけた。特に国語科や生活文化科での利用が多かった。</li> </ul>
評 価	C <ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア参加率は、目標の「70%以上」を達成することができなかった。昨年度の参加率を下回っている。(昨年度55.7%)</li> </ul>	B <ul style="list-style-type: none"> <li>・来館者数は目標の94%を達成した。また、本の貸し出し数は1人平均2冊であった。(昨年度は1.9冊)</li> <li>・来館者が固定化している。放課後に勉強をしに来る生徒も少ない。</li> </ul>
学校評議員の見 意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域との活動(例:立山まつり)に積極的に参加し、地域貢献の姿勢は評価できる。参加生徒の充実感を測る方法を工夫し、未参加生徒に促す方法も引き続き工夫してほしい。</li> <li>・ボランティア活動への参加を促す取り組みが進んでおり、生徒の学びや行動力が向上している。参加者の感想を取り入れ、他の生徒への募集方法を再検討してほしい。</li> <li>・図書館利用が低い現状を改善するため、友達や先生、保護者からの推薦本を紹介するなどの取り組みを考えてほしい。電子書籍の利用方法も検討してほしい。</li> </ul>	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度校内ボランティアに参加した生徒の約5割は、年間を通じて複数回参加しており、活動後は達成感や充実感を持っている。参加した生徒の声を学校新聞に載せるなど、今後も「一度参加してみる」ことを促していく。一度参加した生徒の中でまた参加したいと思った生徒は、86.9%であった。</li> <li>・学校外ボランティアの依頼が増えてきている。これまでは、生活文化科中心であったが、生徒全体へ周知し、普通科の生徒にも、もっと参加してもらえるように募集案内の工夫をしたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新しく来た教員に授業やHRでの図書室利用をPRする。</li> <li>・授業や検定、進路等で必要となる文献や書籍を充実させ、探究活動での情報収集にも対応できるようにする。</li> <li>・図書委員の力をうまく活用して工夫した企画を立て、委員会活動を活性化させることで図書室利用促進につなげる。</li> </ul>

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:あまり達成できなかった D:達成できなかった)

重点項目	(5 その他) 専門科目(家庭)の学習指導の充実			
重点課題	専門科目の基礎的、基本的な知識と技術の習得を図るとともに、生活文化科での学びに対する達成感や充実感を高める。			
現状	・中学校での家庭科の学習内容の縮減や、家庭や地域における生活体験の希薄化により、家庭に関する基礎・基本が定着しにくく、創意工夫の意欲が乏しい生徒が増えている。			
達成目標	①家庭科技術検定における合格率・取得率		②卒業時における生活文化科に対する満足度として、3学年生徒へのアンケートを実施し、生活文化科で学んで「よかった」と答えた生徒の割合 90%以上	
			合格率(受検者数に対する割合)	取得率(在籍者数に対する割合)
	4・3級	食物調理 被服製作	100% 100%	100% 100%
	2級	食物調理 被服製作(洋服)	85% 80%	85% 80%
		〃 (和服)	85%	33%
1級	食物調理 被服製作(洋服)	85% 85%	55% 40%	
	〃 (和服)	85%	40%	
	※2級(和服)、1級は選択者が受検している。 ※前年度までの実績と今年度の生徒の実態をふまえ、検定ごとに目標を設定した。			
方 策	・家庭科技術検定合格に必要な学習指導、実技指導の徹底を図る。		・専門科目全般の学習指導および体験的総合的な学習の充実を図る。	
達成度	3級	食物調理 被服製作	100% 97%	100% 97%
	2級	食物調理 被服製作(洋)	97% 82%	92% 78%
		〃 (和)	92%	33%
1級	食物調理 被服製作(洋)	93% 100%	61% 43%	
	〃 (和)	82%	39%	
具体的な 取組状況	・4級、3級については、基本的な知識と技術の習得を目標に細やかな指導をした。 ・2級、1級については、筆記試験および実技試験とともに、全体指導だけでなく放課後の個別指導にも力を入れた。		・被服、食物、保育・福祉の科目を柱とし、各自の進路希望や興味関心に対応した教育課程を設定している。 ・専門性を高めるため、特別講師を招聘した授業の展開、検定取得に力を入れている。	
	評 価	B	・実技を苦手とする生徒が多く、取得率が低くなった。 ・3学年の生徒が積極的に検定取得に挑戦した。三冠王は8名が挑戦したが、取得生徒は6名であった。	
・「大変良かった」「良かった」の合計が90%を超えた。来年度はさらに充実した学びとなるよう工夫したい。				
学校評議員の 見 意	・学科全体として高い目的意識と目標達成意欲があり、学習意欲や生活の充実に繋がっている。検定合格率やスキルアップに向けた取り組みは評価できる。また、個別指導が丁寧に行われている。 ・生徒の満足度調査について、記述式意見の導入や、低い評価の要因を分析され、学習の充実を図ってほしい。 ・資格取得が進学や就職に有利に働き、就職した際には、能力給や資格手当などにつながることを生徒に周知し、また、合格に向けて仲間と共に努力することが大切であることから、実技指導方法を工夫され、学習の充実を図ってほしい。			
次年度へ向 ける課題	・生徒の実態を十分考慮し、全体指導と個別指導を効果的に行い、目標を達成できるよう努めていきたい。		・専門学科に学んで充実した3年間であったと感じるよう、行事、諸活動について検討を重ねていきたい。	

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:あまり達成できなかった D:達成できなかった)